



足尾銅山鑛毒加害激甚ノ土地人民ハ多  
 年間憲法ノ保護ヲ受クル能ハスニテ被害ノ  
 慘憺ニ陥リテ既往今来ノ始末ニ付

請願書

足尾銅山鑛毒加害激甚ノ土地人民ハ多  
 年間憲法ノ保護ヲ受クル能ハスニテ被害ノ  
 慘憺ニ陥リテ既往今来ノ始末ニ付



請願書

足尾銅山鑛毒加害激甚ノ土地人民ハ

多年間憲法ノ保護ヲ受クル能ハスシ

テ被害ノ慘憺ニ陥リタル已往今來ノ

始末ニ付請願

憲法ノ保護ナキコト久矣惟ニルニ憲法保護ノ

請願ヲ其憲法ノ保護ナキ行政府ニ對シ再三其

ノ保護ヲ請願ヲ為シタルトモ今ニ至ルモ其保

護ヲ方法ヲ為サ、ルヲ以テ帝國議會ニ向テ其

保護ノ請願ヲ再三ニスルノ真ニ止ヲ得サルモ

一足尾銅山鑛毒ノ加害ハ人為ノ加害ニシテ我

々々鑛毒激甚地八十數年前ヨリ所有財産及人

畜衛生權利等ヲ侵害サレツ、アルニ行政府

大正十一年四月  
隈侯爵邸寄贈

ハ憲法法律ヲ無視シテ之レカ保護ノ道ヲ立  
テサルコト久矣

二被害土地荒廢ニ至リ年々其產出カヲ減シ隨  
テ收穫ヲ減スルニ拘ラス政府ハ毫モ之レニ  
對スルノ處置ナク土地人民ノ衛生ニ害アル  
モ之ヲ保護スルナク僅カニ土地免租ノ一策  
ニ出テタルノミ然ルニ此事タル素ト天災ニ  
依リテ然ルニアラス即チ人為ノ加害ナリ人  
為ノ加害ハ政府カ最初ヨリ學理上ノ証明ニ  
依テ知ル處ナリ而カモ政府ノ之ニ對スルノ  
處置常ニ人為ノ加害ヲ等閑ニ附スルニ止マ  
ラスレテ其結果免租土地人民ノ公權ヲ奪去  
リ恰モ加害ニ加害ヲ重複セシメツ、アルナ

三被害極メテ激甚ナル地トハ河川ノ兩岸堤外  
地及支流附近逆流地及無堤地及堤防ノ破壞  
地又ハ泥渣沈澱ノ底地等ニアリ然ルニ河川  
附近ハ古來ノ底地ナレハ納租地價極メテ低  
ク免租処分ノ一事ヲ以テ被害ニ對スル方分  
六分一ヲ償フニ足ラス然ルニ免租ノ為メニ才  
二ノ被害タル即チ公權ヲ奪ハレ且ツ飢喝ハ  
刻下ニ迫リ衛生上又保護ヲ受クルノ道ヲ絶  
タレ剩ハ請願ニ對スル奔走ニ疲レテ如何ト  
モスル能ハサルノ慘狀ハ概不此沿岸僻地ニ  
於ケル窮民等ノ蒙ル所ナリ

四右ノ如ク多年法律ノ保護ナキメ我々人民

ハ塗炭ノ痛苦ニ堪ユル能ハスシテ人類ノ住居スヘキ土地ニアラサルニ及ンテ屢々之ヲ中央政府ニ訴ヘントスレハ地方官等權謀術數至ラサルナク常ニ之レヲ遮リ為メニ請願ノ時期ニ後ル、コト多年今ヤ激甚ナル害毒住居ノ四面ヲ浸シ且ツ洪水ノ来ルアラハ父  
子其処ヲ得ス宛困切迫ノ余リ之ヲ中央政府ニ訴フルノ止ヲ得サルニ出レハ兵馬警吏忽  
子之ヲ遮リテ我々請願ノ通路ヲ妨害スルヲ  
常トセリ

五在来ノ地方官郡衙警吏及無害地ニ住スル町  
村長等ノ無情ナル其多數ハ概ニ加害者ノ奴  
隸ニシテ殆ント人類ヲ以テ語ル可カラサル

モ全ク又中央當局官吏等モ多年法律ヲ無  
視シ人民ヲ輕蔑シ其權利ヲ保護セハ却テ加  
害者ヲ為メ勸キ又職務上ノ權能ヲ利用シ  
テ此慘状ヲシテ此極ニ至ラシメタルモノ兩  
方相俟テ此ノ如キ憲法治下ニ見ルヘカラサ  
ル惡事ハ公然行ハル、ニ至リタルモノナリ  
六山林ハ水源ノ因縁スル所ニシテ之カ保護ハ  
決セテ忽諾ニ附スヘキモノニアラス然ルニ  
其濫伐ヲ許可シテ山岳ヲ赭禿ニ歸シ延テ河  
身ヲ破壊セシメ被害区域ヲシテ擴張セシメ  
ツルヤ今尚樹木ノ濫伐ヲ禁セサルハ如  
八何事ハ人ノ業ニ為ルヤ  
七人民ノ生業ハ多年前ヨリ中止セラレ其生命

ヲ刻マレツ、アリ

八被害人民ハ人為加害ノタメ權利名譽ヲ奪ハレ衛生ヲ害サレ健康ヲモ損傷シ發育營養ヲモ減殺セラレ一方ニハ諸般有益ノ生業ヲ中止セシメ他方ニハ有害ノ行為ヲ遂行継続セシム

九例ハハ茲ニ被害未タ甚シカラサル土地ト雖凡人為加害ノ為ノ害ニ土地ノ生産力ヲ失ヒ收穫ト肥料カトヲ損スルノミナラス併セテ工業養蚕漢業家畜等ノ収利ヲモ奪ハレ剩ハ耕作労働肥料費ノ増加ト諸請願等ノ冗費ヲ嵩メ一方ニハ賣買上土地ノ價格ヲ下落セシメ全村土地ニ對スル實力ト財産トヲ滅失セ

十此等事モ其ノ其其稍濃厚ノ被害地ニ至リテ或ハ或ハ毛トナリ或ハ砂漠トナリタルモノ其土地免租トナスト至時ニ公権名譽ヲモ悉ク奪ハレテ全村ニ滅スル土地アリ此等村々ニ是レ町村自治ノ制度ヲ適用スル能ハス其狀恰モ無法律ノ部落ニシテ台灣ノ生蕃ニ於ケルカ如キモノアリ

十一現在法律ノ權利名譽財産トキノミナラス猶一將來年々加害ハ深酷ニ至ルハ必然ニシテ現年三十二年ハ三十二年比シテ其慘狀ノ大ニ加ハリタルヲ見終ニハ此人為加害ノタメ沿岸村ヲ舉ゲテ人類ヲ絶ニ至ルノミナラス又國家ノ一大要素タル數方町歩ノ土地

即千全國田畑凡五百万町歩ニ比シテ凡百分  
ノ一強ニ当ル面積ノ熟地良田並ニ古来ノ臣  
民ヲモ日本内地ニ著名ナル関八州ノ中央ニ  
於テ併セ失フニ至ルヤ明カナリ然ルニ当局  
者等ノ之ニ對シテ冷淡ナルノミナラス甚シ  
キハ國家ノ一部タル或ハ村々ハ目前此入為  
ノタメニ破滅セラレタリト虽モ毫モ之ニ警  
戒ヲ加フルノ色ナク全然之ヲ放棄シ地方郡  
吏ハ村吏ノ瞞着籠絡シテ此激甚ナル被害地  
ヨリ苛酷ニモ村稅募集方ヲ勸誘決行セシメ  
而シテ外面上被害ノ薄キヲ装ハレシ少シモ  
被害激甚地ノ惨状ヲ報告具申セズ  
十一地方官ハ其亡滅セシ村落ニ高給ノ郡吏ヲ派

地村落管掌セシメ其月給ヲ強收セシム  
是尙政府自ラ手ヲ下シテ被害民ヲ虐待スル  
十三毛杜ノ册野月再農工率水益中六且  
十二被害ノ惨状ハ延テ東京府下ニ波及シ江戸川  
下流ノ魚貝ニ直接影響セシニモ拘ハラス当  
局官吏其実地ヲ探檢巡視セシモノ殆ント  
稀ニ其後快難毒ノ災禍ナリ  
十四毒鑛毒被害土地恢復願  
(明治三十年六月廿七日請願)  
一鑛毒被害土地恢復願ハ現在ノ被害地タル栃  
木群馬埼玉諸縣下ニ於ケル毒地ノ恢復ノニ  
ナラス尚沼岸毒土流下ノ防止ヲ為ササルハ  
カラサルヲ以テ將來濃厚トナルハキ被害地  
則チ渡良瀬利根西川ハ下流地茨城千葉東京

江戸川等ノ西河岸ノ加害ヲ豫メ避クルノ西  
義ヲ含ムモノナリ彼ノ昨年五月廿七日農高  
務大臣ヨリ下シタル豫防命令ハ唯加害者タ  
ル鑛業人ニ対シ借區地内ニ於ケル諸般ノ大  
工事ヲ為サシメタルノミ其結果ハ外觀上流  
毒防備ノ安全ヲ装ハシメタルニ止マリ已往  
ノ加害則チ鑛毒ノ沈澱セル渡良瀬利根両川  
沿岸一帯ニ流布セル毒土ノ除却及將來ノ鑛  
毒洪水ニ汎溢スヘキ防備等總テノ豫防工事  
ヲナサシメタルニハアラス此ノ如ク被害ノ  
土地ヲ恢復スヘキ工事ヲ為サス且ツ將來ノ  
保險ヲナスニモ足ラサレハ現政府ハ宜シク  
此際加害者ニ命スルニ右ノ諸工事ヲ果サシ

ハ被害地ノ幾分ヲ回復シ免租地ヲシテ納租  
地ト為サシメタルハカラス  
十三昨年六月九月再度ノ洪水ニヨレハ鑛毒浸入  
地見分ノ事ハ稲作ノ未タ新リ取ラレサル當  
時ニ於テ相願タキ旨屢々陳情セシモノニテ  
今日ニ至ルモ茫々タル廣野稲作ヲ新取ラサ  
ル慘状ニ候  
十四免租継年期願ノ趣旨ハ其継続被害タルニ加  
ヘテ除害方法ノ到底現狀ニ類シ又唯々除害  
ノ模範ニ過キスシテ其狀宛モ失明者ニ眼鏡  
ヲ掛ケシメタル如ク何ノ効カ之レ有ラン  
刺下ト虫氏山岳益々崩壞シ洪水頻繁ニシテ  
河底ノ埋高一年尺余ニ達スルハ現在ノ事實

ニシテ洪水一回ヲ加ル毎ニ追年濃厚ノ被害  
地ト化スルハ見易キ已往ノ実歴ナルカ故ニ  
之カ継年免租ヲ請願スルノ止ムヲ得サルニ  
出ル所以ナリ

河身浚渫堤防増築新設願(三十年十月廿二日請願  
三十一年九月廿六日請願)

十五渡良瀬川河身改修大工事費ハ測量ノ結果凡  
ソ一千三百万円ノ豫算ナリトハ松方内閣ノ  
時ニ於テ内務大臣ノ調査結了セシモノナリ  
然ルニ今春未更ニ再測量ヲナセルヲ見ルニ  
未タ河床毒砂浚渫堤防増築等ノ実行ノ着  
手アルヲ見ス而シテ昨三十一年六月九月ノ  
洪水ヨリ未ル鑛毒ノ加害ハ之ヲ廿九年ノ洪  
水ニ比シテ幾層甚シキモノアリ且ツ廿九年

三十年度ノ出水ニヨリ河床埋高人幾段多  
キヲ加ヘシヨリ其雨量ハ廿九年ニ比シテ多  
カラス出水量亦々比較的多加ラサルニ係ラ  
ス其惨害ハ却テ廿九年度ヨリモ二三層激甚  
ナルモノアリ之レ濫伐後山林ヲ整理其宜シ  
キヲ得サルガタメナレハ今時ニ水源涵養林  
ノ扶殖事業ヲ督責セラレタキヲ以テコレカ  
為メ其請願及陳情ノ止ム時ナキニ不拘今  
及シテ高濫伐ヲ差止メサル事

衛生調査願(三十年十月八日陳情  
三十一年十月十四日  
十五十六日當局大臣ノ請願)

十六衛生調査願 明治三十四年以來帝國議會衆  
議院ニ於テ政府ニ對シ衛生上ノ質問ヲ加ヘ  
タルヨリ茲ニ九年然ルニ前内閣ニ至ル迄曾



テ調査ノ報告ナシ然ルニ三十年ノ春衆議院  
ノ質問攻撃ニ逢ヒ之ニ答ヘンカ為メカ只僅  
カニ某醫學博士ヲ派遣セシメ栃木縣足利郡  
役所ニ於テ被害地農民某夫妻ヲ呼出シ郡吏  
之會ノ上右ノ夫妻ヲ裸体トナシ大小便ヲ促  
シテ其便糞ヲ分拆セリト如斯被害民ヲ試験  
的ニ侮辱セシコトアリシノミニテ未タ一人  
モ調査官ノ被害地ニ至リ滞留シテ懇篤ナル  
試験ヲ施セシモノナシ且ツ被害等ハ被害地ノ  
穀菜ヲ忌ミテ之レヲ食セサリシノミナラス  
被害地ノ滞留ヲ怖レ奇怪ノ態度ヲ示シ已ニ  
有害ノ穀菜ナルコトヲ知テ食セス其地ニ居  
ル能ハスシテ匆々其地ヲ逃ケタルニモ係ラ

又衛生上ノ調査ヲ為サス其然ル所以ノモノ  
ニ急ニシテ被害ノ激甚ナル村々テ毒分ヲ含  
ムル飲食ニ露命ヲ繫キ居ル程ノ愆レ至極ナ  
ル人民ノ生命ヲ顧ミサルニ因ル此等ノ毒地  
ニハ草木生育セス只僅カニ杉菜ト云フ草ノ  
一種ノ存スルノミ此草ハ從來牛馬ノ嗜ム草  
ナリシモ之レスラ今ハ鑛毒ノ為メ其味ヲ  
失フテ牛馬亦之ヲ食ハスナリ又嗚呼我等被  
害民ノ不幸如此食物栄養分ノ欠乏ハ云フ迄  
ナモナク渾テノ衣食ヲ害セラレ婦女ハ乳汁ノ  
欠乏ヲ来シ乳児養育ノ道ヲ絶タルニ至リ  
又近來此毒食ヲ為スノ故ニヤ怪シキ腸虫ノ

腸内ニ生スルヲ見聞スルニ至レリ

救助願

十七曩ニ請願セシ町村八十餘ヶ町村アリ其内激甚ノ毒地ハ凡二十ヶ町村ニシテ又其内ノ十七八ヶ町村中現在何大字小字ニ區別シテ何字々トシテ被害ノ厚薄ヲ見ルヘシ此等ノ村々或ハ大字小字ハ一度毒水浸入スルヤ幾旬日減水セズ田畑宅地ハ勿論屋内床上ニ至ル迄鑛毒ヲ含メル泥濘ノ沈澱堆積シ起卧飲食ニツナカラ之ヲ欠キ水後ト虽氏蔬菜豆菽悉ク腐敗シ其根莖ノ毒蝕サレテ食スルヲ得ス鑛毒加害ノ未々来ラサル十余年前ニ於テハ洪水ノ際水底ノ枝豆ヲ薺リ取り之ヲ煮テ飢

餓ヲ凌クモノ多カリキ今既往ノ実験ヲ以テスレハ洪水ハ大概豆ノ七八分實リシ時ナルニ近来ハ此枝豆マテ水底ノ銅臭ニ感シ惡臭其味ヲ變シテ食スル能ハス飢餓ニ迫マルモ喰フニ食ナキ有様トナリタルハ洪水ノ内ニ鑛毒ヲ含ムニ至リタルヨリ起リ来レル事實也昨三十一年九月中洪水未々床ヲ去ラサル廢屋中ニ妻子老幼ヲ留メテ泣訴ヲナサンカ為テ鑛毒激甚ナル村々ノ人民上京ノ途ニ上リタルハ斯ル悲境ニ沈淪セシカ為メト知ラズヤ然ルニ事素ト天災地変ニ出タルニアラズシテ別ニ人為ノ加害者アルヲ以テ世人却テ天災地変ノ罹災ノ如ク之ヲ救フノ念慮ヲ

起サス又之ヲ救フノ術ヲ講セス故ニ其害ヤ  
却ツテ彼ノ夫災地更ヨリモ慘酷ナルコト幾  
十層ノ上ニ出ツルモノアリ況ンヤ政府ハ帝  
ニ之ヲ救ハサルニナラス却テ軍馬ヲ駆ツ  
テ我々被害民ニ衝突セシメ威赫抑制ヲ試ミ  
シカ如キ事實アルニ於テマヤ是レ寧ロ我々  
被害民ヲ殺戮スルモ願意ヲ貫徹セシメサル  
コトヲ意味スルモノナリ

町村自治破壊ノ町村費國庫補助願

十八町村自治破壊ノ事ハ其未々全村亡滅ニ至ラ  
サル村々ト虽氏一村ノ一半若クハ一部分ハ  
猶將來ニ継続スヘキ加害ノ事實アルヲ以テ  
到底一年二年ノ免租ヲ以テ恢復シ得可キニ

アラス亦已往ニ失ヘル其実カモ天災地変乃  
至普通洪水ノ如ク無毒ニシテ一時ノ災害ノ  
無味草純ナルモノハ直チニ其後圖ヲナシ恢  
復ス可シト虽氏鑛毒被害ニ至テハ極メテ深  
酷複雑ニシテ且年々永久継続スル悪毒タル

十リ葉實ニ

十九其鑛毒稀薄地ノ如キハ固ヨリ肉眼ヲ以テ見  
出ハカラス隨テ容易ニ被害ノ有無ヲ判シ難  
キモノアリ今其伎リノ統計ヲ示シテ鑛毒稀  
薄地ノ例トセン当初鑛毒ノ加害ナキ時ニ在  
テハ既往數年前其收穫壹段歩ニハ凡米式石  
ヲ得タリシ田地ニ在テ一昨年亦式石昨年亦  
式石ヲ獲タリトスレハ其收穫ノ石數ニ於テ

ハ殆シト合売勺ノ減損ナク稲作ノ當時ト  
 虫氏青々トシテ茂リ一見恰モ無害地ノ如キ  
 觀アリ之レ常人ノ迷フ処アリ然リト虫氏鑛  
 毒水ノ被害ハ只收穫ノ升目ノミヲ以テ標識  
 スハカテサルモノナリ  
 左ニ其累計ノ理由ヲ示サン  
 十六其第一田造段歩 現收穫貳石 旧ノ如シ  
 十二藁質ヲ損シ依テ肥料カラ損ス依テ肥料  
 額増進ス  
 三米質粗悪ノ損害 (量目ヲ減ス)  
 四土地賣買價格ノ下落(他無害町村賣買地  
 價騰貴ノ比例ニヨリ被害地ト虫氏近來  
 一般ノ土地價格ニ伴ハル、勢アリトス

ルモ無害地ニ對シテ其比例的差異ヲ生  
 シタルヲ見ルヘシ  
 以上ノ如ク既往數十年前ハ天然ノ肥料力充  
 分ニシテ土地肥沃ナリシヲ以テ勤勞少クシ  
 テ式石ニ得タルモ被害地ノ肥料費ハ年々増  
 加シテ今ハ壹段歩五、六田ヨリ八九田若シク  
 ハ拾田ノ多額ヲ要スルニ至リ收穫ノ升目ノ  
 三田ノ如シトスルモ其耕目ニ見ハレサル肥  
 料増進ノ損害年々數田ニ至ルモノアリ加フ  
 ルニ米質ノ粗悪ヲ未シテ布價為ニ減少シ  
 及地價賣買價格ノ無害地ニ伴ハサル等ヲ計  
 算セハ免租ノ金額一段ニ付金壹田五拾弍内  
 外ヲ以テ到底其半ヲモ償フニ足ラサルハ最

モ見易キ計算ナリ

二十又無害地ニ接近セル灌溉用水ノ被害地ノ如キハ洪水ニ伴フ被害ニアラス自然用水ニ誘レ来ル鑛毒ナレハ其用水未流ノ田地ニシテ被害稀薄ノ場合ハ其勞働肥料モ殆ント無害地ト全一ニシテ全一ノ收穫アルモノ、如ク觀察ヲ下スモノアレバ其米質ト土地賣買價格ニ至リテ忽チ多少ノ差異ヲ生スルモノナルヲ以テ無害地ト全一ナリト云フ可ラサルハ明カナリ又其米質モ不良ナリト虽レ之レ等ハ未タ無經驗家ノ不知不識ノ間之ヲ賣買スルモノナキニアラス然ルニ今天災地變ノ為メニシテ無毒ノ水災々レハ固ヨリ此害ナ

ク却テ肥料ノ浸入スルモノアリテ間接ニ土地ヲ益スル程ノモノナルヲ知ルヘシ今鑛毒激甚ナル被害ノ事情百般ノ複雑ヲ約シテ言シカ一旦其侵害ヲ被リタル土地ハ鑛毒ノ厚薄ニ拘ラス其土地自然年ヲ追フテ全面ノ發育ヲ妨ケラレ年ヲ追フテ土地瘦セ年ヲ追フテ民力衰へ智体亦展ヒサルノ境遇ニ陥ルモノアリ或ハ既ニ其境遇ニ赴キタルアリ又ハ其進行ノ途中ニアルアリ可怖可憂ノ次第ナリ彼ノ無經驗ニシテ輕薄冷眼ニシテ無慈悲ナル徒ニ至テハ夏日稻田ノ青キヲ見又ハ收穫ノ外目ヲ聞キテ一樣ニ皮想ノ誤リヲ生シ其稀薄地談ノ一方ヲ聞キテ濃厚地ノ如何ナ

ル程度損害ノ厚薄間接無形ノ計算ヲモナス  
 ノ念ナク被害民ノ苦惱ヲ察セス遽ニ稀薄ノ  
 被害地ヲ指シテ有耶無耶的漫評ヲ全面ニ下  
 シ今ノ稀薄地ヲレテ他日濃厚ノ被害地トナ  
 シ其土地ヲ併セ失フヲモ之ヲ傍觀セントス  
 二十以上稀薄ナル土地ニ於テ既ニ然リ況ンヤ其  
 稍被害ノ濃厚ナル土地ニ於テオヤ尚其甚シ  
 キ者ニ至テハ表面上肉眼ヲ以テ識別シ得ル  
 ホトノモノナレバ其慘状ヤ殆ント筆舌ノ及  
 フ処ニアラス其土地ハ不毛トナリ又ハ沙漠  
 トナリ真ニ人類ノ住居ニ耐ハサルニ至レリ  
 二十二其町村費被害地々租割ノ欠損ハ勿論之ヲ政  
 府ニ請ハサルヲ得ス

一人ニシテ被害地ト無害地トヲ所有スル  
 モノコト  
 茲ニ一人アリ田畑山林ヲ所有シ其内ノ一半  
 ハ被害地ニシテ已ニ生産力ヲ失フタル為メ  
 免租トナル残ル一半ノ無害地ハ普通租税ノ  
 外ニ於テ更ニ此被害地ニ代リテ無害地ノ面  
 積ニ及響スル國家ノ負担ヲ生シ即チ國民全  
 一ノ負担トシテ國庫ノ欠損額補充ノ義務ヲ  
 負ハサルヲ得ス加之地方税及町村税等ニ至  
 ルマテ此例ニ依テ被害地納税ノ欠額ヲ補フ  
 タメニ無害地カ加重ノ負担ヲ為スモノトセ  
 ハ被害地方ノ府縣ニ於ケル無害地ノ人民ハ  
 國民加重税ノ義務ヲ負ヘルノ外ニ於テ地方

税町村費ニ於テモ尚二重ノ負担ヲ被リ其被害町村ノ無害地ハ町村地租割ヲ合セテ更ニ三重ノ負担トナル次第ナリ是レ國民全一納税義務ノ外ニ於テ此幾重ノ負担ヲ蒙ラサルヲ得サルニ依リ被害地方府縣郡村無害地人民ノ加重負担ヲ拒ムノ当然ナルハ言ヲ待タサル所ニシテ即チ其地方税及町村税ノ欠額等ハ之ヲ國庫ノ補助ニ依リテ償ハサルヲ得サルナリ

二十三官有地ノ損害ヨリ来ル影響

官有地川沢池沼原野ノ被害損耗ハ國家ノ損害ニシテ附近人民ノ損害ハ實ニ左ノ如キモノアリ

第一川沢池沼附近ノ漁獵者ハ明治十三年迄栃木縣ノニニテモ二千六百余人アリ去レハ群馬埼玉茨城千葉ニ接属セル渙鳥捕獲者ハ凡ソ数千名ノ夥シキモノアリシニ今ハ僅々数百人ニ減シタリ之レ等ハ水脈異ナル無毒ノ枝川ニ附属スル渙獵者ノミナリ此有毒池沼ノ邊等ニ住スル渙獵者ハ絶ヘテ其跡ヲ見ス加之此附近ニ住居スル貧民ノ生業ト農高トヲ始メ渾テノ生業ハ早クモ数年前ヨリ衰頽又ハ亡滅セリ

第二此官有地ニ属スル河川ノ收穫水産ノ多量ナル其種類ハ頗ル雑多ナレハ此川沢池沼ハ魚鳥捕獲者ノ生業トナルノミナラス沼岸

一帯天然ノ肥料ハ田園ノ開拓ヲ促シ其実力ヲ培養シ往古農工商ノ人口ヲ蕃殖セルモノシ所以ニシテ群馬縣ノ相生栃木縣ノ足利両町ノ繁昌等ハ当初渡良瀬桐生西川ノ水質佳良ト其枝流泉沢池沼ニ蕃殖セル魚鳥草木及ヒ天然肥料舟楫等農高渙業牧畜等巨多ノ天産ニ富メルヲ以テ往古自然ノ村落ヲ為シテヨリ今日ノ繁昌ヲ致スニ至リタルハ其一例ニシテ尚沿岸数十里モ亦皆全一ノ恩惠ヲ受ケツ、アリシハ疑フヘカラサル事実ナリ然ルニ今ハ之ニ及シ官有地被害ノタメニ人民ノ所有地ヲ始シ渾テノ財産ヲ殺滅セラレ延キテ衛生ヲ害シ生業ヲ賊ハントスルノ悲境ニ

至レリ

二五此ノ如キ河川ノ保護スルハ政府ノ義務ナリ  
二五官有地ヲ擧ケテ少数加害者ノ蹂躪スル処ニ任シ其損害ハ農工商及漁獵其他ノ職業ニ至ルマテ幾万ノ生業ヲ撲滅シテ而カモ政府ハ恬トシテ之ヲ顧ミル処ナシ  
救助及救済願  
二六土地所有者ノ損害現時金四千余万円ノ賠償ハ之ヲ司法裁判ニ訴フヘキモノナレドモ政府監督ノ下ニ被害民ハ加害ヲ受ケツ、憲法法律ノ保護ナク其被害地ハ憲法々律ヲ守リテ多年間租税ノ義務ヲ尽セシモノナリ即チ已レノ土地ヲ害サレツ、法律ノ下國家ノ財



政ヲ充足スルノ義務ヲ尽シタルモノナリ宜  
ナル哉其年月ノ永キ為メ数年前ヨリ究困交  
々切迫シテ近年又旦夕ノ資ニ苦ム村落アル  
コトヲヤカフルニ此等ノ町村ハ既ニ自治ノ  
実カラ失ヒ又自治ノ法律ヲ容ル、能ハサル  
ニ至リタルハ被害ノ為メ起ル自然ノ結果  
ナルヲ以テ豫メ夫等ノ事情ヲ認メ被害未々  
近年ノ如ク激甚ニ至ラサルニ先チ去ル廿  
四年以来衆議員ハ屢々当路ニ質問ヲ為シ又  
去二十九年以来幾十回カ被害民ハ之ヲ行政  
ニ府ニ訴フルモ空シク歲月ヲ経過シテ其処分  
ニ實行ヲ見ス昨年四月ニ至リテ町村維一ノ教  
育費及役場費等ノ財源ハ勿論町村基本財産

ヲ失ハ又各譽公権ヲモ悉ク之ヲ失ツテ遂ニ  
至全村亡滅セルヤリ又ハ其過半亡滅シ若クハ  
其一半若クハ其幾部ヲ亡滅セルモノナリ此  
一事ニ徴スルモ憲法法律ヲ破壊シタルコト  
瞭々大ヲ見ルカ如シ尙今年九月ノ洪水ニ至  
テ更ニ其慘状ノ実況ヲ甚大ナラシメタルモ  
カアリテ後ニ至ルニ其地獄ノ面影  
ニ七鑛毒加害ハ年々増加未リテ我等ノ生命  
ニ大ニ刻ミテ堪ス之ヲ中央ノ行政府ニ訴  
ヘント欲セハアラユル手段ヲ以テ其道ヲ塞  
カレ威嚇暴横以テ其進行ヲ妨害セラレ斯ノ  
如ク憲法ノ保護法律ノ保護ナキノミナラス  
法律ハ恰モ加害者ノ左右スル奴隸官吏及悪

村長等ノ利器ニシテ即チ被害及土地人民ヲ  
殺害スルノ凶器ナリ法律既ニ然ラハ人民何  
ヲ以テ其地ニ住居ス何ヲ以テ被害者ニシテ加  
害者ニ対スルノ裁判ヲ提起スルヲ実カテシヤ  
二十八被害激甚地ノ人民ハ日々血涙ヲ吞シテ行政  
ニ上テ悔辱ヲ忍ビ殘忍ヲ堪スツテ天下四方ノ  
同胞ニ訴ヘテ止マサルモノナリ此歳月間憲  
法及律ノ保護ヲ蒙ラス只々侮辱ト虐待ヲ蒙  
ルヲ如ク保護ナキ政府ニ対シ憲法ノ保護ヲ仰  
グハ殆シト無策ナリカ如シト云氏ノ言ハ  
陛下ニ憲法ノ保護ヲ仰グ其畏レ多キヲ奉恐察  
止ムナク此殘忍難ルニ行政政府ニ向テ即チ憲

法々律ノ保護ヲ仰グ其無餘儀次方此悲ム  
新キ境遇ニアルニ状恰モ被害者訴状呈スル  
ニ如キ感アルハ深期同胞ヲ憐メ乞フカ  
カテサレ所ナリ  
二九仰キ願ハ我國政府アリトセ被害地  
ノ毒土ヲ除却ステ前々ノ土地トシテ相当ノ納  
租地ニ復シ國民ノ義務ヲ負ハセテシヨ少  
クナトモ大皇帝陛下臣民ニ對シテ其古來ノ日  
國本人其ノ資格ヲ得セテ其ノヨ其鑛毒加害ノ損  
害ニ対シテハ多年間法律ノ保護ナキニモ拘  
ラス被害地ヨリ納税シテ法律上ノ義務ヲ尽  
クセシ國民ノ資格ニ対スル待遇ヲ以テ政府  
ノ救済ヲ請フモノナリ

二十被害民生命ヲ全フスル為メ衛生上一切ノ保  
護相立矣様先キ地方廳ヲ經テ請願致矣也  
右々各請願ノ要目ニ付其事實第一班ヲ舉ケ特  
ニ憲法ヲ保護ヲ仰カシテ願意ヲ陳ハタルニ  
過キス其實情ニ至テハ決シテ此等ヲ申尽シ  
タルニハアラス前ヨリ鑛業主カ營利ノ為  
メ設ケル粉鑛採集器等以テ豫防ノ工事ト唱  
ヘ政府自ラ鑛業主ニ代リ此偽リヲ報告シテ國  
家ヲ欺ル地方知事郡吏町村役場員ヲ過半  
ハ相結モテ加害者ニ加担シ後々地形上実功  
ヲ見ルカカラス山腹内人工ヲ以テ此ノ害ヲ  
防キ得ルモノト為シ以テ政府責任ヲ遁路トナ  
ス此二面ノ工事ハ皆加害者ノ營業ニ屬スル所

有ノ器械トモ未ダ沿岸ノ毒土ヲ除却スルキ命  
令ヲ發シタルニテ且ツ豫防ヲ為サシムル  
ル命令ヲ發シタルニテ只營業者ノ所有  
セル工事ヲ見テ被害地ノ々々ニ備ヘラレタル  
モノト誣ラル然レトモ可悲被害民ハ之ニ答フ  
ル智識資力ナキヲ以テ之ヲ攻撃シテ訴ルノ事  
ヲモ為シ克ハサルホト其罪ノ甚クハ茲ニハ只  
昨年夏以來被害増進ノ実況ヲ記セシメ一昨  
年来屢々差出シタル諸請願全始未畧書等ニ時  
々々大要ヲ申述置タルニ之ニ御参照被下此  
鑛毒被害地土地人民ニ對シ日本ノ人民タル我  
々ニ對シ日本憲法々律等ノ保護アツテ少クモ  
臣民ノ道相立矣様一昨年来当局諸大臣及帝國

議會ニ再三請願候得共何等採用セラレシ廉ナ  
ク特ニ昨年六月九月兩度ノ水害ニハ鑛毒又多  
量ニ汎濫セルヲ以テ家屋尚ホ水中ニ没セラレ  
ツ、アテニモ係置不被害激甚地ノ冤民ハ舉テ  
中央政府ニ訴フル所請願為メ漸クニシテ遂  
ニ出シハ警吏軍馬之ヲ遮リ或ハ威嚇ニ殘酷ノ  
行動至ラ升ルナクシテ其請願ヲ為サシマス而  
シテ今年ハ鑛粉ハ田畑ニ沈澱スル事旧日ニ幾  
倍シ米穀一切実ラス藁稗ヲ使用肥料トナル能  
ハス庭宅皆毒中ニ没セラレテ居住ニ耐ハサ  
ラシメ且ツ不毛ノ沙漠地ヲ大ニセリ之レヲ二  
十九年ト三十年トニ比スレバ其慘状ハ更ニ幾  
層ノ重キヲ致シ深毒地ノ小兒ハ頻リニ死セシ

衣食刻下ニ尽キ金融途絶飢餓ヲ訴フルモノ道  
路ニ徘徊スルニモ不拘地方官之ヲ顧ニス中央  
政府之ヲ救ハス今ニ及ンテ我等ハ秩序的請願  
ヲ為スハキノ餘カナン政府若シ一片ノ愛情ア  
ラハ幸ニ加害者ニ命スルニ田宅ノ毒土ヲ除却  
セシメ且ツ其豫防ヲ加害者ニ嚴命シ損害ヲ償  
ハシメヨ而シテ其実行ヲ督励シ田畑宅地ヲ旧  
ニ復シ納税ノ義務ヲ尽サンメヨ尚鑛毒ニ死セ  
ントスル小兒ヲ蘇生セシメヨ蘇生セシムル能  
ハシメヤ多年間加害者ニ結托セシ道路ノ官吏  
亦調處外之ヲ嚴刑ニ処セラレヨ若シ之ヲ為ス  
能ハズレバ死シタル小兒ノ父母及我々ヲモ軍馬  
若シ警吏親ニ委シテ父子兄弟ヲ係セ殺戮シテ此



